

シカ5.5万頭 イノシシ6.7万頭

鹿県、推定頭数初算出

「適正生息数目指す」

鹿児島県は21日、鹿児島市の県庁で県特定鳥獣保護管理検討委員会を開き、県内に生息するシカとイノシシの推定個体数を初めて公表した。県内にはシカが約5万5千頭、イノシシが約6万7千頭それぞれ生息するとみられる。県は、農作物や生態系などへの被害を防ぐための次期管理計画に反映させ、捕獲などによる適正管理に役立てる方針だ。

シカとイノシシの推定頭数はこれまで、十分な調査地点確保が難しかったため算出でき

シカとイノシシの推定個体数が多い自治体

順位	シカ		イノシシ	
	自治体	頭数	自治体	頭数
1	屋久島町	21206	志布志市	3827
2	薩摩川内市	5683	南大隅町	3730
3	伊佐市	4341	薩摩川内市	3583
4	出水市	3880	阿久根市	3426
5	霧島市	3411	曾於市	3143

※シカは平平均値、イノシシは中央値を記載

なかった。今回の調査は、国の交付金を利用することで、シカは21市町、イノシシは33市町村で調べることが可能となり、推定個体数を出した。その結果、シカは多くて約7万6千頭、イノシシは多くて約8万8千頭生息すると考えられるという。

シカの推定頭数（平均値）を市町村別にみると、屋久島町が2万1206頭で最も多く、薩摩川内市5683頭、伊佐市4341頭と続く。イノシシの推定頭数（中央値）は、

志布志市が3827頭で最多。南大隅町3730頭、薩摩川内市3583頭と続く。

県によると、15年度のシカによる農林業被害額は約2億1千万円、イノシシは約1億5500万円。県自然保護課の松枝英隆技術補佐は「推定頭数を踏まえ、適正な生息数を目指したい」と話している。（五反田和美）